



「たんぼにまつわる話」30.

「トーチカの行方？（生き物の楽園）」

岡山市原十川 巡一

小学生の頃は、よく生き物を捕まえに行きました。谷川に行ってはサワガニ捕り、川に行っては魚捕り、あるときたんぼに行ってみると、トーチカ（アメリカザリガニ）がいるのでビツクリしました。（町中に住んでいた頃は汚いドブ川でよくザリガニ釣りをして遊んでいました）それもあっちにもこっちにも。

その頃は農薬など余り使わなかった時代だったのでザリガニも沢山いました。ザリガニは夜のうちにあぜに穴をあけます。するとたんぼの水がもれてしまうので、母が毎日見回っていました。しかし、子供の頃の私はそんなことは知りません。夢中で捕まえました。よほど面白かったのでしょう。気が付くとバケツにいっぱい補れていました。私の家は村の一番高い所だったので、必死で持って帰りました。玄関に入ると五畳ぐらいの土間があり、そこに大きなカナダライに水を少し入れてザリガニを移すと、音を立てて這いまわります。その多い事、自分でもびっくり！しばらく眺めていましたが、また、すぐに遊びに行きました。（本当によく外で遊んでいましたねえ）やがて夕方に帰ってみるとザリガニがいまません、タライもない。不思議に思っていました、あまり気にも留めずすぐに忘れてしまいました。

やがて晩ご飯です。その日は天ぷらでした！祖父が「うめーか？」戸聞いた。「うん、うめえ」と私が答えると、「それは今日巡一が取ってきたトーチカじゃー」あまりの事にびっくりして次の言葉が出てきませんでした、頭の中で「トーチカって食べれるんだー」と思いながら口にほうばりました。（とても美味しかったー）

大人になってわかったことですが、アメリカザリガニは食用ガエルの餌にするために輸入されたもの

だったのです。（ヨーロッパのある地方では今でも大きな池をいくつかに分け、入札をしてザリガニ漁をしています。捕れたザリガニは塩ゆでして食べます。日本のシャコみたいな感じですね）

その頃の（昭和31年）たんぼにはドジョウも、沢山いました。今度は祖父が捕ってきました。「今夜はドジョウ汁じゃー！」皆、美味しそうに食べていましたが、私は煮ている途中でドジョウの体が白くなり、目もまっ白になっていたのを見たので、気持ちが悪くて夢中で食べた為、味など何処かへ飛んでしまいました。（ドジョウ汁は豆腐とドジョウを水からいっしょに炊きます。熱くなってくるとドジョウは冷たい豆腐に頭から突っ込むのです。）

子供の頃、ドジョウは流し針になくてもはならないものでもありました。ドジョウを二つに切って、針に刺します。一本のタコ糸に70cm感覚で沢山の針をつけた凧糸を、夕方に旭川を横切って沈めておき朝早く上げに行くとウナギやギギ・ナマズなどが捕れました。夏の楽しみの一つでした。（ミミズだと色々な魚が取れました。大きなニゴイが取れた事もあります。）時々川に仕掛けていましたが。ドジョウはいくらでもいました。最近では考えられません。アミで探してやっと3～4匹捕れるぐらいです。

昔のたんぼには他の生き物も色々と沢山棲んでいて、ゲンゴロウも良く見かけた昆虫でした。今では余り見つからないタガメなどもすぐ見つけることができました。ホウネンエビは今でもよく見かけますが、昔はもっと沢山いました。エビかと思って捕まえるとホウネンエビでした。「なんじゃ、この生き物は」と思ってチョットびっくりした思い出があります。



沢山捕れたザリガニ



7月に田んぼの中で捕まえた生き物 オタマジャクシ、カイエビ、タニシ、ナマズ、フナ、マツキムシ